

## 私が考える地球的問題－浪費と貧困－

Nguyen Nhu Quyen

福岡女学院大学

現在全世界はさまざまな問題が共有している。それは貧困の格差、食品安全、環境汚染などである。これらの問題は、さまざまな原因からだと思えるが、私は、先進国の浪費と途上国・後進国の貧困のつながり、具体的に食品の生産と消費について述べたい。

まず、私は今日本に留学しているので、先進国の代表である日本で見たことから考えたい。私はスーパーでアルバイトをしている。仕事のひとつは朝一番に昨日売れなくて残っている食品を捨てることである。お弁当、サラダ、野菜炒め、から揚げ、麺類とパイキングの揚げ物各種類などは多かれ少ながれいつも残る。ほとんどの商品はまだ食べられるが、賞味期限が切れたので廃棄しなければならない。1万円ほどの食品を捨てるのは日常のことである。スーパーは毎日まだ食べられるものを捨てている。

このことは決して珍しいことではない。どこのスーパーやコンビニでも毎日食品を廃棄している。統計により、年間日本は1900トンの食品廃棄物を排出している。そのうち、まだ食べられるのに捨てられる物が500万トンから900万トンとも言われている<sup>1</sup>。それに対して、毎日およそ25000人の人々が餓死、または餓死に関連した死因でなくなっている。そのうち4分の3は5歳未満の子供である。なぜこのようなことがあるだろうか。

スーパーの話に戻しましょう。経営者、もしお客さんが買ってくれないと大変な状態に落ちる。商品の陳列は少ないとお客さんが足を運んで来てくれないので、食品を多様にして、安く、山盛りしなければならない。廃棄は当然のことだと認めるようである。

次は先進国に食品を輸出するひとつの国、ベトナムにある話である。先進国と農産を貿易するおかげで、国が少しずつ変わっている。新しい市場が出てきたという機会を生かして豊かになる人が多いが、それを対応できなくて破産になってしまう人も少なくない。その原因は何だろうか。

ここでベトナムに起こったことを例として挙げたい。一つは、十数年前、ある国が香り葉っぱを多量購入するというニーズがある。私の村、皆は殺到その葉っぱを植えた。しかし、突然に購入側は輸入が断念してしまった。外国に売られなくなり、ローカル市場はその多量葉っぱを消費できないので、値段が落ちてしまった。あまりにも輸出に期待した農家が資本金さえ取り戻すこともできなかった。

その後、外国はアロエをいい値段で買ってくれる情報があった。皆は早速に香り葉っぱの木を取り捨て、アロエを育った。でも今度もバイヤーが突然に買ってくれなかった。原因はアロエ農場ができたからである。向こうの方が大規模な農場なので、品質管理でも値段的にも小規模の農家より良かったようである。私たちはもう一度空に帰した。

また、エビの話である。外国からエビの消費量が年々増えるそうである。その激増のニーズを答えるために、大規模で海岸の森を伐採し、エビ養殖場を作った。保護林がなくなったので、まもなく養殖場の周辺が海水侵害され、淡水源が枯渇され、生活水源が汚染された。エビから得た利はわずかの人のみもらえが、エビから出た害が多くの人を受けなければならぬ。

ここで先進国である消費者・バイヤーと途上国・後進国である生産者との貿易関係について考えたい。先進国は、多様で豊富な食品を安い値段で得られるというメリットは言うまでもない。一方、途上国や後進国から見たら、先進国が良い値段で購入され、そして技術の指導や投資などの他の大きなメリットももらえる。しかし、リスクも大きい。一つ目バイヤーから突然買ってくれない危機がある。消費者の趣味が変わるとか、もっとやすく販売する国が出てくるか、研究された新しい種類の植物が開発されるなどである。そのとき生産者のほうが不利の立場になってしまう。二つ目は品質管理とコストダウンのため、大規模の農場が必然として現れ、小規模の農家は競争する能力が弱いので破産されてしまう。ただひとつの作物を大規模に栽培するモノカルチャーは現在の普及になっている。しかし、モノカルチャーは、現地の生物の多様性をなくしたり、土壌を劣化されたりする。長めに見たら生産地の環境に大変悪い影響を与える。そしてもう一つは、ベトナムのエビ養殖のように、途上国・後進国は経済を優先しており、環境を犠牲するという選択をとってしまう。その後、環境破壊のため、病気がかかったり、劣化した土壌に生産できなくなったり、食品安全上で購入されなくなったりしてしまうので、また貧困の状態におちる。以上の原因で、途上国・後進国は貿易が発達しても貧困状態から抜け出せない、環境破壊－貧困の悪循環に入るわけである。

現在、先進国は「より良い、より安い、より多い」と求めている。これを答えるために、途上国たちは「もっと大規模、もっと（資源を）開発」しなければならない。しかし、商品があふれる先進国の人々は無駄使いにしている。一方、上に述べたように、途上国・後進国がより生産しても必ず貧困から抜け出せるわけではなく、反対に貧困の悪循環に入ってしまう可能性がある。これは先進国の浪費と途上国・後進国の貧困のつながるところだと考える。

先進国の浪費と途上国・後進国の貧困は大変時代的、グローバル的問題であるので、この

論文に解決の提案を提出しかねるが、一つの商品について考えたい。それは、最近先進国の国々で少しずつ普及になっているオーガニック食品である。オーガニック食品は「無農薬栽培」、または、「減農薬栽培」の食品である。つまり、消費者の健康にいいものだけでなく、農家が栽培の過程で農薬を控えられるので、農家の健康にも、栽培の環境にもやさしいものである。

オーガニック栽培法は自然法に従うような方法ですが、現代の基準と要求を答えられるには技術とノウハウが必要そうである。もし、先頭に経験や技術を持っている先進国が途上国・後進国に伝わって、この食品をより広げたらどんなにいいことだと考える。そうすれば、以上に述べた問題が少なくとも解決できるのではないかと考える。

先進国のバイヤーでもあれ、途上国・後進国の生産者でもあれ、一つの共通点がある。それは最後の消費者、私たちである。もし、消費者である私たちは浪費にならないように心をかけたら、自分には良い商品、さらに生産者にも良い商品を選んだら、地球にもやさしいことになるのではないかと考える。

参考文献：

『「飢餓」と「飽食」』 p. 186~197 荏開津典生. 講談社出版(1994)

『オーガニック食品がわかる本』 横田哲治. 日本実業出版社(2000)

---

<sup>1</sup> 政府広報オンライン：<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/200906/4.html>